

ケアマネジメント（介護予防支援、居宅介護支援） の報酬・基準について

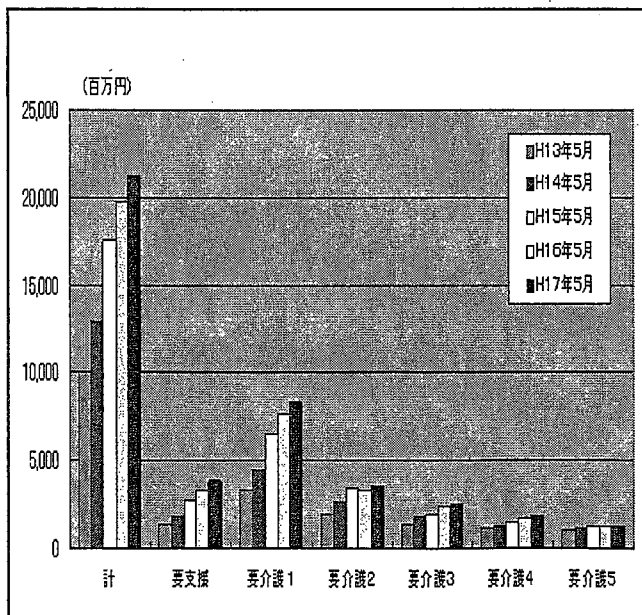
I. ケアマネジメントの現状と課題

- ケアマネジメントは、利用者にとって最適なサービスの組み合わせを多職種協働・連携により総合的に設計、提供する仕組みであり、これが公平・公正に機能することはサービスの質を確保する上でも重要なことであるが、現状においては、次のような課題が指摘されている。

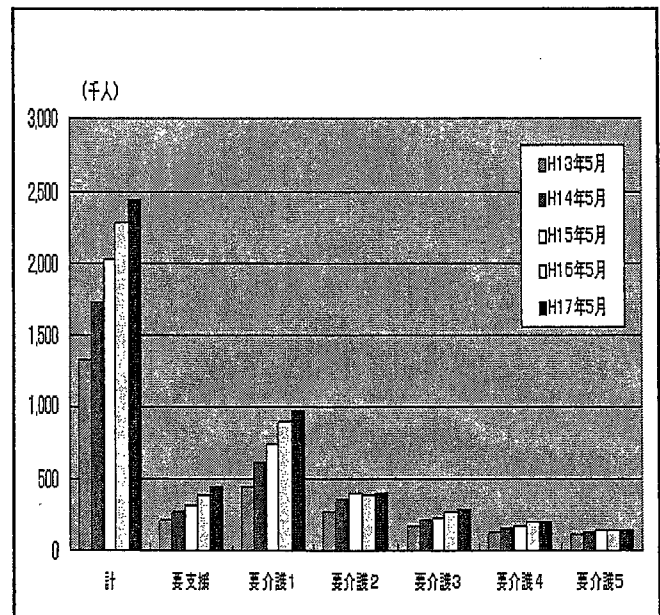
(1) 費用額・利用者数における軽度者の占める割合の増加

- 介護保険制度の導入以降、ケアマネジメントの費用額・利用者数ともに年々増加し、17年5月現在、費用額は約212億円、利用者数は約244万人で、平成13年5月比で、それぞれ、約2.1倍、約1.8倍となっている。
- なかでも、「要支援」及び「要介護1」といった軽度者にかかる費用額、利用者数は、全体の6割弱を占め、17年5月現在の費用額は、平成13年5月比で、約2.7倍の増加となっている。また、対前年度比の増加率をみても、他の要介護度区分に比較して、著しく高い伸び率を示している。

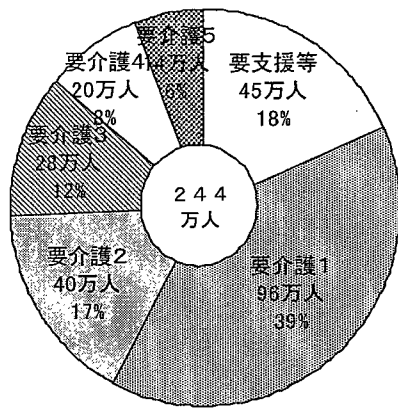
【費用額の推移】



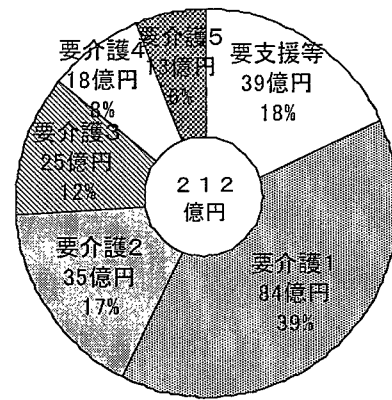
【利用者数の推移】



受給者数



費用額

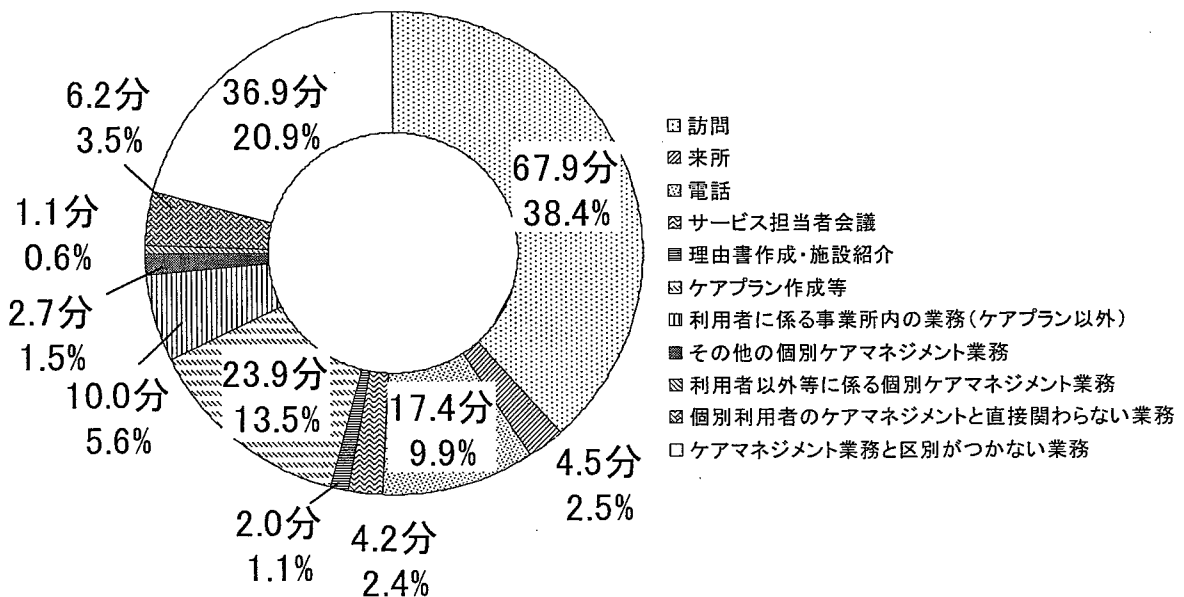


(2) ケアマネジメントのプロセスに関する課題

ケアマネジメントのプロセスについては、ケアマネジメントの基本プロセスを徹底し、質の高いケアプランを作成している事業所がある一方で、次のような課題が指摘されている事業所もある。

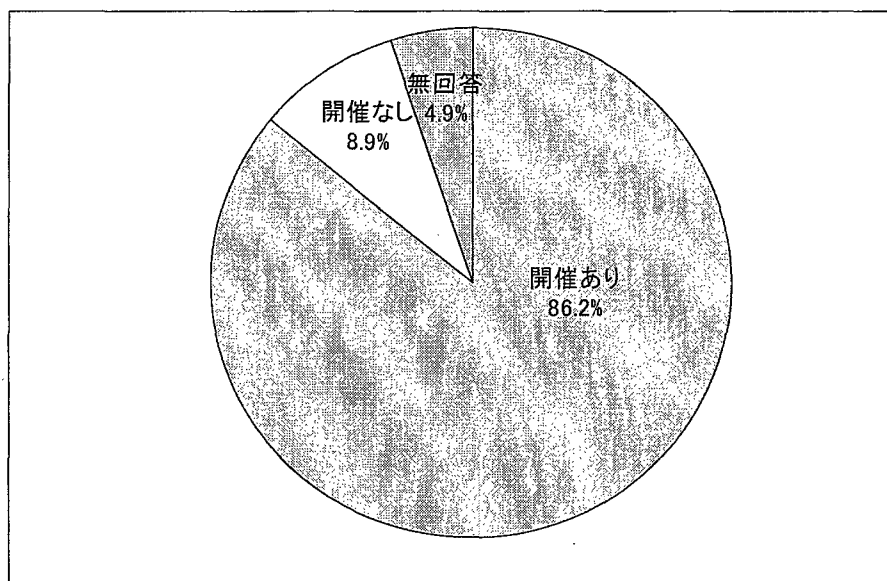
- アセスメント、ケアカンファレンス、モニタリング等のケアマネジメントの重要なプロセスが、十分に実施されていない。
- 主治医をはじめとした多職種との連携が十分に行われていない。
- 在宅と施設、医療と介護など、利用者の状態の変化に応じた継続的なマネジメントが十分に行われていない。

【ケアマネジャーの業務内容】



(出典：居宅介護支援事業所及び介護支援専門員業務の実態に関する調査（平成15年度三菱総合研究所）)

【サービス担当者会議の開催状況】

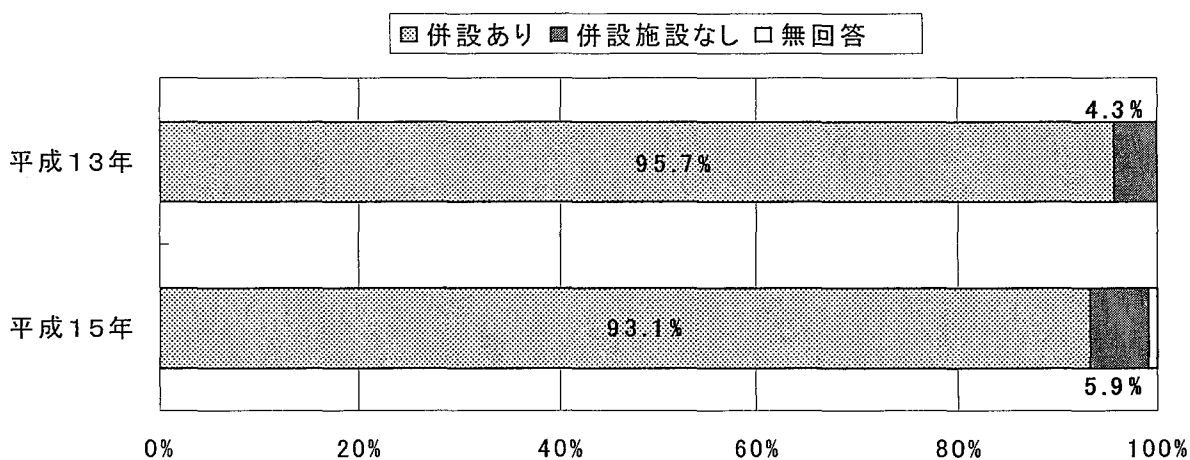


(出典：居宅介護支援事業所及び介護支援専門員業務の実態に関する調査（平成15年度三菱総合研究所）)

(3) ケアマネジメント機関に関する課題

- 9割の事業所がサービス事業所と併設されており、併設型の場合、自らのサービスをケアプランに位置づける傾向が強い。

【ケアマネジメント事業所の併設状況】



(出典：居宅介護支援事業所及び介護支援専門員業務の実態に関する調査（平成15年度三菱総合研究所）)